学生と教員で作る文理融合リベラルアーツＦＤ公開フォーラム

ご挨拶

耳塚 寛明（教育機構長）

季節外れの陽気の中、お集まりいただきましてありがとうございます。これから第 3 回目になります文理融合リベラルアーツ FD フォーラムを開会いたします。

既に皆さんご存じのことと思いますが、「文理融合リベラルアーツ」は、平成 20 年度から導入されて、まもなく 2 年目が終わるということになります。5 系列のすべてが開講される、いわば完成年度を迎えたわけです。この教養教育の一つの形態に対する社会的な関心というのは予想外に大きく、高く、例えば昨年の暮れに、いわゆる認証評価の訪問調査が行われましたが、そのときにも評価委員からの質問が集中しました。疑問の声というよりは、文理融合の中身等について非常に肯定的に評価しつつ、たくさんの点についてお尋ねがありました。とりわけ、文理融合という特徴については理系の先生方が関心を寄せられて、自分の所属している大学でも取り入れたいというような声も聞かれました。

完成年度を迎えたと申し上げましたが、それは同時に導入の後の第 2 ステージ、つまり現状をチェックしてさらに行動に移す、そういうチェック・アンド・アクションを開始すべきステージの始まりでもあるということです。さらに平成 23 年度、来年 4 月からは専門教育についても複数プログラムの選択履修制度の導入が予定されています。これが動きだしますと、リベラルアーツと複数プログラム選択制度が合わさった形で、お茶の水女子大学の新しい学士課程教育というのがつくられることになるわけです。

今日のフォーラムは、その現状をチェックするための第一歩に当たると思っています。その焦点は、系列として学ぶことの意味、特に文理融合という理念の実効性にあると考えています。

今日の報告は、パンフレットをご覧いただいてお分かりのように、9 人の学生さんと 5 人の教員の登壇が予定されております。お一人お一人に割り当てられた時間は短いのですが、いろいろな角度から多様な意見が聞けるものと期待しています。

それでは、実りあるフォーラムになるように、どうぞよろしくお願いいたします。

司会・菅聡子：ありがとうございました。ただ今の耳塚先生の言葉にもありましたように、今年度は 5 系列すべての系列が出そろいました。また来年度からは、今お話がありましたように、第 2 ステージに進むということも含め、今後のリベラルアーツの授業をより有意義なものにするために、まずそれぞれの系列を受講した学生の皆さんから、率直な忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っています。それらを受けて、教員の方からの発表があり、また、その意味などを考えて、来年度以降に出していきたいと思っています。ですから学生の皆さん、どうぞご遠慮なく、思うところをご提案いただければと思います。

また、今日はたくさんの皆さんにお話をいただくことになっています。質問してみたいこととか、ご意見等がおありかと思うのですが、取りあえず学生の皆さん、教員の側からの話を全部続けて行いまして、それぞれの方へのご質問ですとか、相互のやりとりは最後の全体討論のところでまとめて行わせていただきます。ですので、それぞれの方へのご質問とかは、もちろん学生さん相互へのご意見とか感想というものはぜひ書き留めておいていただいていて、最後の討論のところでお話をいただければと思います。

本日発表していただく学生さんですが、この資料の方にそれぞれ系列の形でお名前が出ていますが、これは系列の先生方からお声を掛けていただいたりというようなことから、こうなっております。実際には系列をまとめて取った学生さん、あるいは逆に今の方のように、いろいろなところを取ってくださったというように、さまざまな取り方のご意見を伺いたいということで、今日はご発表いただいています。

司会：菅 聡子（人間文化創成科学研究科 文科学系 教授）
加藤 美砂子（人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系 教授）

Copyright@2010 Ochanomizu University. All Rights Reserved.